

愛媛県ノーリフティング ケア普及啓発事業

済生会 西条老人保健施設いしづち苑

発表者：藤田花奈

リーダー：谷崎二郎 サブリーダー：奥山博文、白岡由佳

委員会メンバー 看護師長：矢野美也子 看護師：吉良恭平、理学療法士：大西淳也

介護福祉士：安田順子、栗谷真紀、藤田花奈

施設の概要

- 老人保健施設いしづち苑 超強化型算定。
- 入所定員55名：(認知症専門棟:30名、一般棟25名)ショートステイ併設。
- デイケア定員60名
- 利用者 平均年齢 :86.8歳
- 平均介護度 :要介護3.5
- 職員数:入所介護職:21名 看護職:8名 デイケア介護職:14名 看護職:2名
リハビリ職員:8名

令和3年5月時点

実施前の福祉用具、職員の状況

- 実施前導入福祉用具実績

スライディングボード2枚

フレックスボード1枚

レンタルリフト1台(通所リハビリテーション)

電動ベッド55台。

- 介護職員数52名に対し、37名、7割以上の職員に腰痛が見られている。

導入前の福祉用具使用状況

- 電動ベッドを作動させず、オムツ交換時の姿勢や、利用者と職員の体格差から無理のかかる姿勢での移乗介助を行っていた。
- 移動介助の方法についての知識が少なく、ADLの低い体格の良い利用者への移動介助は、バスタオルを用いて職員2名での移乗介助を行っていた。
- 福祉用具について、なんとなく知っている程度で、使用した経験、知識がない状態であった。
- 用具は数点あるが、時間がないなどの理由から使用しているのは限られた利用者のみであった。

ノーリフティングケア普及啓発モデル事業 応募理由

- 利用者の不安を払拭、重度化の予防。
- ノーリフティングケアの理解と定着。
- 職員の腰痛改善と予防の推進。

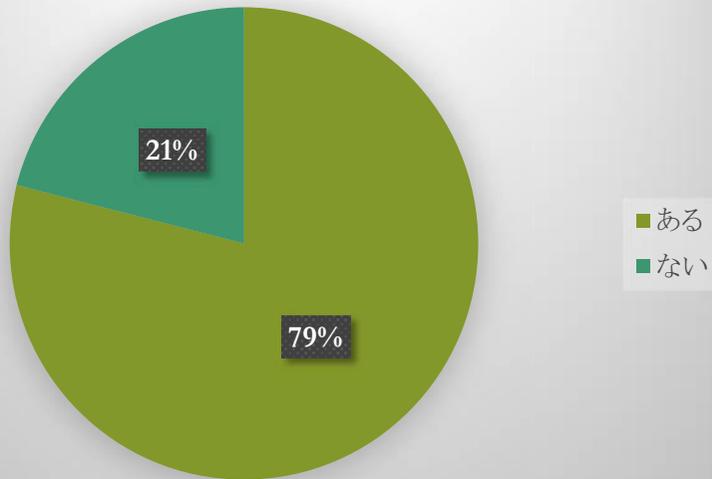
ノーリフティングケア委員会の立ち上げ

- 介護主任をリーダーとし、介護職6名、看護職2名、理学療法士1名を委員会メンバーに選出し2カ月に一度委員会開催していく事とした。
- リスク見積もり、優先度チェック表より優先的に取り組んでいく利用者の絞り込みを行い、支援の方法、使用物品の選定を委員会メンバーと各部署の利用者担当介護職員、担当リハビリ職員でカンファレンスを行う。
- ケアマネージャーにケアプランのケア項目に立案した支援方法を入れてもらい、家族に取り組みとケアプランで実施していく旨を伝え了承していただく流れとした。

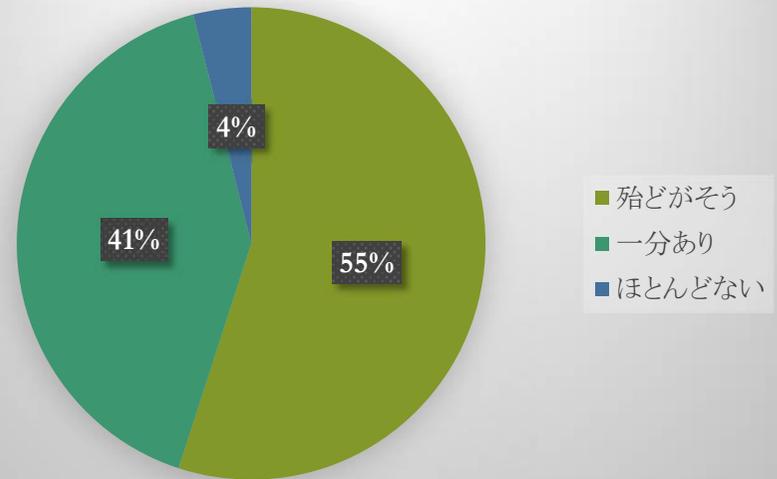
導入前アンケート結果

29名

現在腰痛はあるか



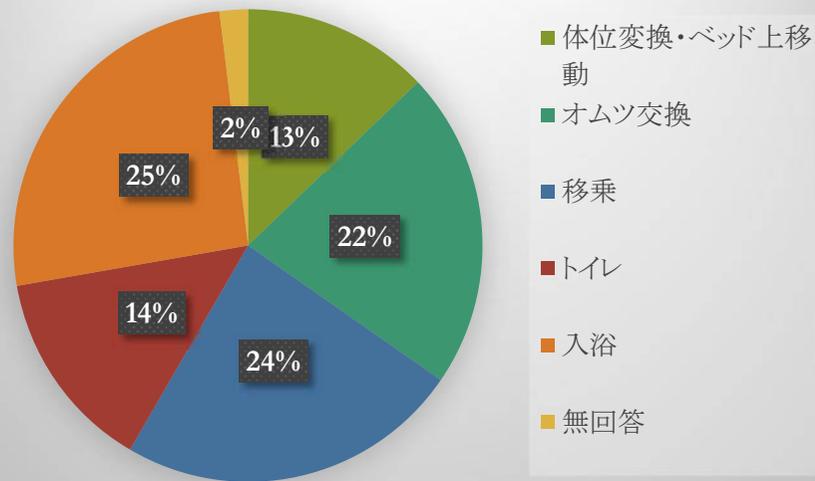
持ち上げ、引きずり介助の有無



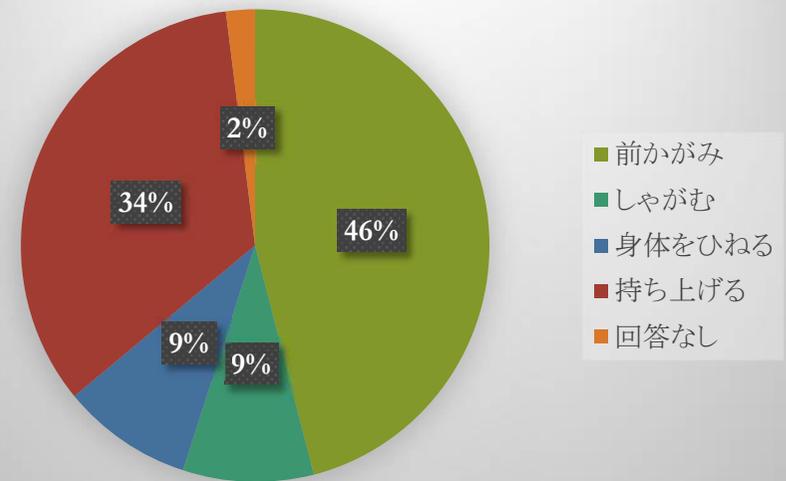
導入前アンケート結果

29名

負担の大きい介助場面



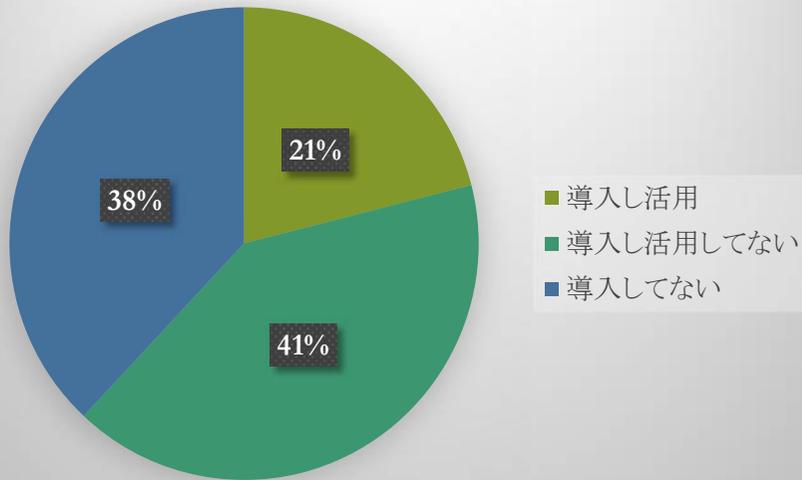
負担の大きい介助姿勢



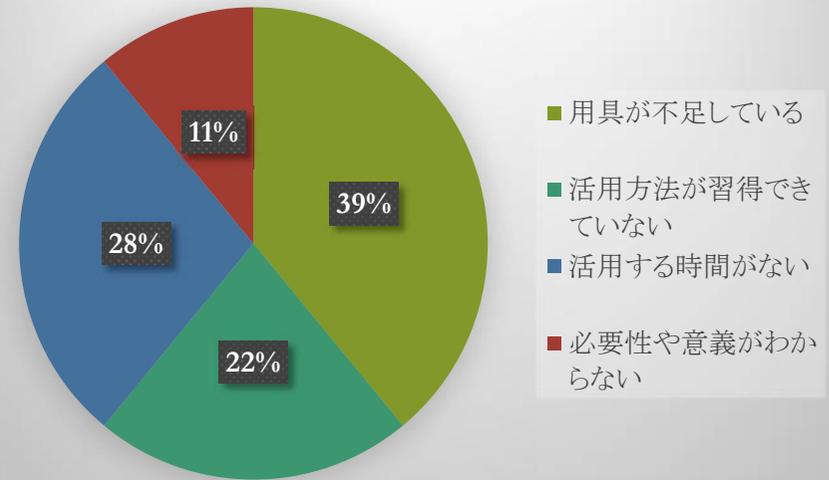
導入前アンケート結果

29名

福祉用具導入しているか



活用していない要因



導入前アンケート結果まとめ

- 腰痛がある人。 79%
- 持ち上げたり引きずる介助がある。 96%
(内、一部あり 41% ほとんどがそう 55%)
- 負担の大きい介助姿勢は。 前かがみ 46% 持ち上げる 36%
- 福祉用具が導入されているが、あまり活用できていない。 41%
- 活用できていない理由。 時間がない 28%
- ストレッチングなどを行っている。 いいえ 79%

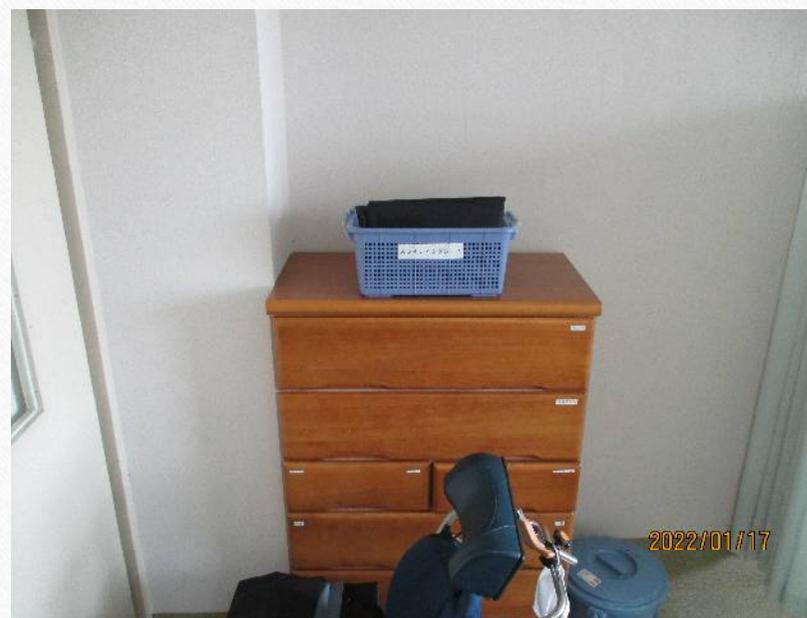
アンケート結果を受けてのノーリフティング 委員会の話し合い・取り組み①

- 効果が表れやすい体位変換、ベッド上移動などの引きずり、持ち上げる介助、オムツ交換などの負担の大きいから優先して行う。
- 要介護者別リスク見積書・優先度チェックリストを参考にし、優先的に取り組む利用者を選定した。
- 必要な福祉用具のリストアップ。
- 利用者別に介護担当者が介護計画書を作成し活用。

アンケート結果を受けてのノーリフティング 委員会の話し合い・取り組み②

- 利用者の居室に福祉用具の作業標準書を写真付きで掲示、置き場所を検討。
- 委員会メンバーと現場職員による作業標準と福祉用具の知識、技術の確認。
- 委員会メンバーが現場職員に福祉用具を用いて介助を行う際に、職員間で利用者の変化を確認。
- 個別のリハビリテーションチェック表にノーリフティングのケア項目を追加し、毎日の状況把握に努める。

すぐに手に取れる場所に用具を設置



個別リハビリテーションチェック表

様(1月)

リハからの訓練内容	1日	2日	3日	4日	5日	6日
#1-① 乗り移り時はフレックスボード使用し、2人介助で行う。※声かけにて本人理解を得る	○	○	○	○	○	○
#1-④ ゆっくりとした四肢の他動運動を行う。	○	○	○	○	○	○
リハからの訓練内容	17日	18日	19日	20日	21日	

実施記録。簡単な気づきや変化を記録するようにした。

10月・12月 研修会の様子



現場ラウンドの様子



入所の取り組みの様子



デイケアでの取り組みの様子



利用者さんが廻ろうとされる問題があった。

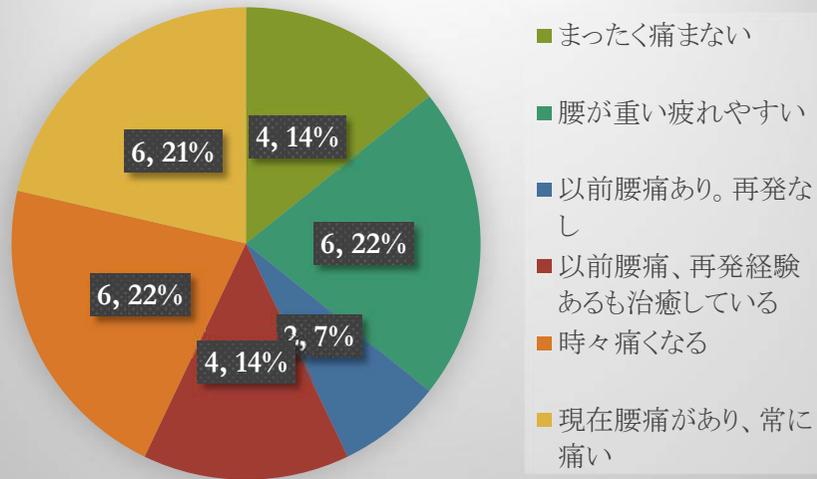


手順書にしっかりと足で抑えることを明記した。

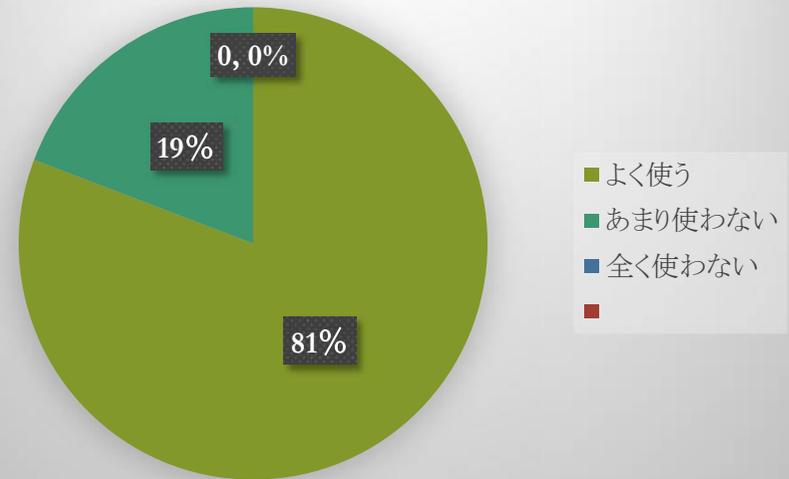
導入後アンケート

看護職員7名 介護職員21名

腰痛状況について



福祉用具・機器の利用状況



導入後のアンケート結果から

○身体的な負担の軽減の意見は多く聞かれた。

事前アンケートの腰痛がある。**79%**→導入後**56%**と減少している。

導入し活用している職員数も**8%**→導入後**21%**と増えてきている。

○移乗介助の技術が身に付き、前かがみの姿勢で力を入れることが少なくなった、ベッドの上方への移動がスムーズに行えるようになった等、腰への負担が軽減したとの意見が多数あり。その他、利用者本人の残存機能への働きかけができないのではとの意見や、ショートステイを利用させている方に対しては、在宅と連携を図ることでもっと良かったとの意見もあった。

取り組みの結果

◎ 利用者の変化

- ① 臥床時に呼吸が楽そうに見える。
- ② 表情が穏やかになったなどの気づきがあった。
- ③ 表皮剥離などの事故件数は減少傾向。
- ④ 定期的なモニタリングを継続していく。

◎ 職員の変化

- ① 持ち上げない介助を意識できるようになった。
- ② 積極的に取り組む職員が増えてきた。
- ③ ノーリフティングケアの効果を感じる。
- ④ 腰が楽になった。

令和元年 10月～1月移動時の表皮剥離件数7件

令和2年度 10月～1月移動時の表皮剥離件数2件

令和3年度 10月～1月移動時の表皮剥離件数1件

今後の取り組み

- クッションなどの福祉用具が数多く準備いただけたので、利用者の様々な生活の場面で積極的に導入し、利用者の快や安心に繋げていく。
- 場面に応じて何の福祉用具を使用し、どのように対応したかを記録していき、ケア内容の引き出しを増やしていく事が大切。
- 超強化型算定の老人保健施設であるため、職員だけでなく在宅での利用者と家族の生活を見据えた福祉器具の導入、使用方法の伝達や技術指導が必要。今後どのように家族に対しノーリフティングケアと福祉用具の紹介、技術指導を行うか検討していく。

ご清聴ありがとうございました。

いしづち苑 マスコットキャラクター

